



著者プロフィール

高柳克弘（たかやなぎ・かつひろ）

1980年静岡県浜松市生まれ。

早稲田大学教育学研究科博士前期課程修了。

藤田湘子に師事。第19回俳句研究賞受賞。「鷹」編集長。読売新聞朝刊KODOMO俳句選者。中日俳壇選者。2017年度および2022年度「NHK俳句」選者。早稲田大学講師。

句集に『未踏』（ふらんす堂、第一回田中裕明賞）、『寒林』（同）。評論集に『凜然たる青春 若き俳人たちの肖像』（富士見書房、第22回俳人協会評論新人賞）、『どれがほんと？ 万太郎俳句の虚と実』（慶應義塾大学出版会、『究極の俳句』（中公選書）。鑑賞書に『芭蕉の一句』（ふらんす堂）、『蕉門の一句』（同）。児童書に『そらのこどばが降ってくる 保健室の俳句会』（ポプラ社）。翻訳絵本にピーター・シス『ロビンソン』（偕成社）。

〈句集『涼しき無』より転載〉

〈2022年4月27日時点〉

『涼しき無』

（自選15句）

高柳 克弘

名をもらひ赤子も花の世の一人
戦争も退屈も嫌白日傘
人のかほおでん熱しとゆがむなり
忘るるなこの五月この肩車
子にほほゑむ母にすべては涼しき無
春愁や壁の絵いつか壁に等し
東方は絶海のみや甘茶仏
地面とはすなはち地球運動会
抱きとめし子に寒木の硬さあり
薔薇の芽や神持たず子を愛すのみ
子育ては素足にトマトソース踏む
水鉄砲落ちし芝生を情欲す
ペシミスト我乗るスキー列車かな
海風に錆びたるシャワー浴びにけり
日向ぼとしてゐてちがふこぢやない